

# 世界の人びとのための JICA基金

## 2019



# 世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金」では、市民の方々に寄附を通じて国際協力に参加いただき、その寄附金を財源にNGO/CSOなどが行っている国際協力活動を支援しています。

寄附を通じて皆様の想いを途上国の人びとに届け、平和で豊かな世界の実現に向けてともに貢献していきたいと考えております。



2015年9月、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、193の加盟国によって「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。このアジェンダでは、「誰一人取り残さない」ことを理念とし、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17の開発目標 SDGs (Sustainable Development Goals) を設定しています。

SDGsを達成するためには、一人ひとりに焦点を当て、これを、貧しい国、中所得国、豊かな国のあらゆる国々で取り組むことが必要です。そのために、民間企業や市民社会の役割が益々高まり、あらゆるステークホルダーが連携すること(グローバル・パートナーシップ)も求められています。

JICAはSDGsの達成に貢献すべく、さまざまなステークホルダーとの連携を強化し活動に取り組んでいます。その一つが「世界の人びとのためのJICA基金」(JICA基金)です。

2018年度も、多くの方々や団体の皆様の寄附により、貧困や飢餓に苦しむ人びとの生活向上、医療や教育の提供、環境問題、災害復興支援等において、10件の活動を支援することができました。

皆さまの温かい想いに深く感謝申し上げます。

# 2018年度JICA基金活用事業の紹介

団体名／活動国  
事業名

国際ボランティア非営利団体DAREDEMO HERO／フィリピン

セブの貧困層からリーダー育成! 貧困問題の根本的解決を目指して

ニバルレキレ～I am special!～／南アフリカ共和国

貧困地区の若者と家族の問題解決の道標となるライフストーリーブックの作成

ハイチ友の会／ハイチ

マイクロクレジットを通じたモリンガ栽培・加工促進事業

アジア歯科保健推進基金(AOHPF)／東ティモール

小児むし歯予防プログラム

特活) Living in Peace／カンボジア

マイクロファイナンス機関向け教育事業

NGOネパール『虹の家』／ネパール

2015年ネパール大震災被災地の子どもたちのための復興コミュニティづくりへの支援活動

耕志の会／インドネシア

西ジャワ州スメダン県とバンドウン県における小規模農家の持続可能なコーヒー栽培のための研修事業

特活) 学び舎つばさ／ベトナム

ベトナム貧困地域における、子どもたちへの日本語教育支援事業

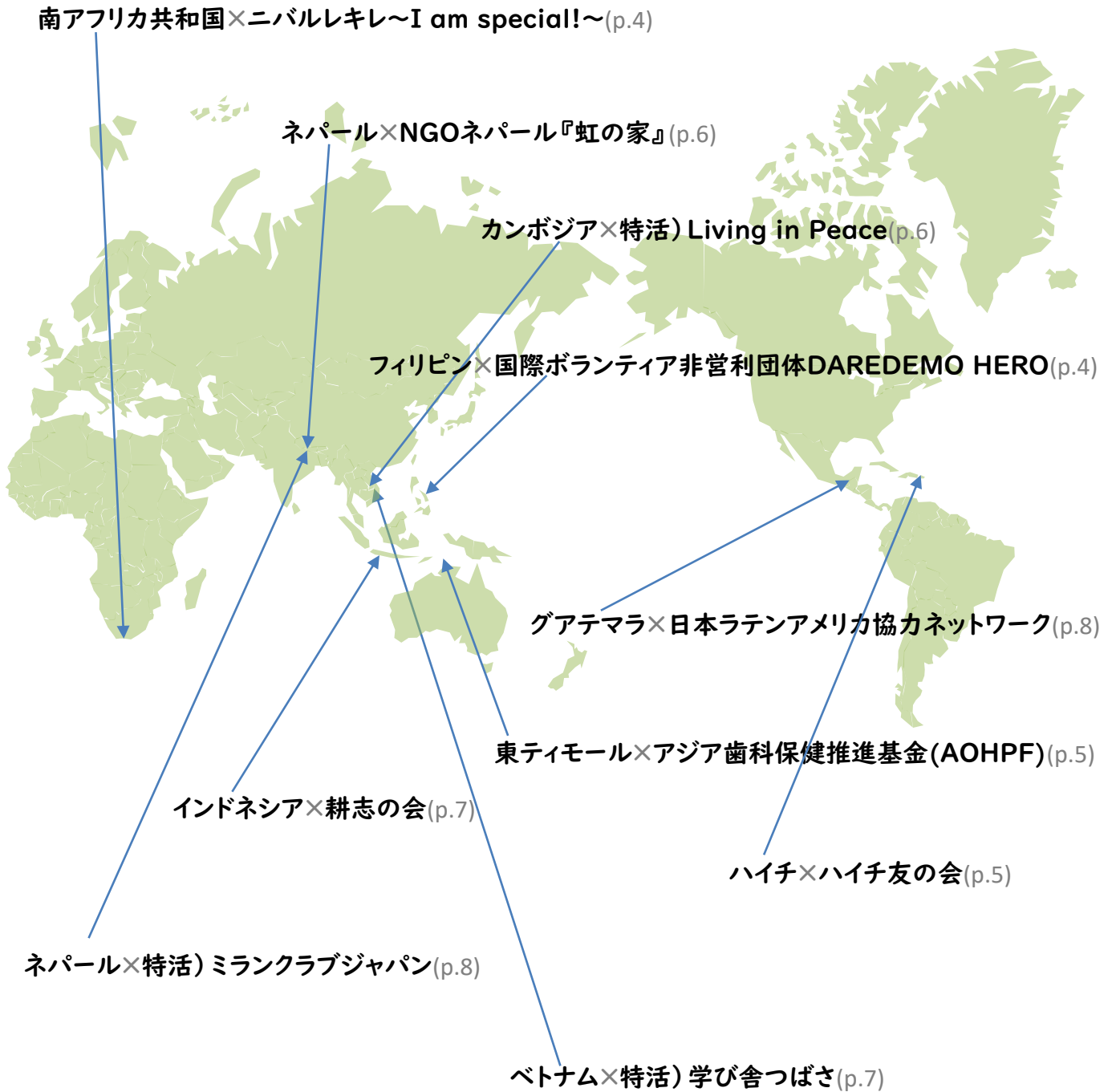
特活) ミランクラブジャパン／ネパール

ネパール大震災で被災した子ども達への奨学金支援事業

日本ラテンアメリカ協力ネットワーク／グアテマラ

ポアキルでの貧困削減のためのマイクロクレジット事業

## 対象国×実施団体名



**9か国で10案件が実施されました!**



# セブの貧困層からリーダー育成！ 貧困問題の根本的解決を目指して

対象国：フィリピン 団体名：国際ボランティア非営利団体DAREDEMO HERO



1 貧困をなくそう



## 事業紹介

リゾート地として知られるフィリピンセブ島ですが、現状は貧富の差が激しく、貧困がゆえに学校に行くことすらできない子どもたちが沢山います。この貧富の差をなくすためには、貧困の苦しみを知らずとも子どもたちが、未来のリーダーとなりこの国を変えていく必要があります。

DAREDEMO HEROでは、未来のリーダーを育成するために、貧困層の子どもたち44名に昼食と奨学金の支給、教育支援を行っています。栄養バランスの取れた昼食の提供によって、事業開始前に何らかの治療の必要があった19名の奨学生全員の状態が改善し、治療の必要がなくなりました。また、奨学金の提供により子どもたちは安心して学校に通うことができ、27名が成績優秀者として表彰されるなど、成績の向上にもつながりました。

栄養バランスのとれた昼食



## 団体からの声

この度は、DAREDEMO HEROの子どもたちにご寄附を頂き、ありがとうございました。これまで勉強がしたいのにできなかった子どもたちに、必要な栄養と環境を与えることができ、子どもたちは毎日、とても楽しそうに学んでいます。

子どもたちは皆、貧困や複雑な家庭問題を抱えていますが、それらを乗り越え、将来は自分たちのように苦しんでいる人々を助けたいと、日々勉強に励んでいます。子どもたちがそれぞれの夢を叶え、この国の貧困問題を解決するリーダーとなれるよう、これからも子どもたちに寄り添い、支えていきます。



# 貧困地区の若者と家族の問題解決の道標となる ライフストーリーブックの作成

対象国：南アフリカ共和国 団体名：ニバルレキレ～I am special!～



1 貧困をなくそう



## 事業紹介

ニバルレキレは、2003年から貧困地区に生きる人々の生活支援と心のケアを行っています。この度JICA基金によって、貧困地区の若者や家族へのインタビューにより彼らの「ライフストーリー」の冊子を作成し、貧困地域で孤立する人々に配布しました。ライフストーリー作成に参加した若者やその家族が、自分の人生に自信を持ち互いに助け合う機会となるとともに、この冊子を読んだ人々が多様な生き方を知り、自身の問題解決の道標としてもらうことで、その後の就学・就業支援につながることを目指しました。活動を通して、「必要なことは何よりも人と出会うこと。人とのつながりを育てられる人、人を信じていることができる人とならなければ助けを求めることができない」「それらをできる人とは、自分自身を大切に、自分自身を愛し信じていることができる人であり、自分自身について語る人」といった声が聞かれ、生きる上でのヒントを見つけてもらうことができました。

ライフストーリー冊子を確認しながらの話し合い(写真：ニバルレキレ)

## 団体からの声

日本では自治体の「暮らしのガイドブック」や、自分史、闘病記などを困ったときに利用する人が多くいます。そのことを現地のスタッフに紹介する中で、今回の活動のアイデアが生まれました。大きな費用負担の生じる活動は、私たちのような小さな団体には難しいため、皆様のご支援がなければこの活動は実現できなかったと思います。出来上がった冊子に予想以上の達成感を口にしてくれたスタッフや、配布先の家族の笑顔は、皆様のご支援があったからこそ生まれたものです。そのことに感謝しながら今回の活動に取り組むことができました。心より、お礼を申し上げます。今後も地域に密着した丁寧な活動を心がけ実施していきたいです。





# マイクロクレジットを通じた モリンガ栽培・加工促進事業

対象国:ハイチ 団体名:ハイチ友の会



## 事業紹介

西半球最貧国といわれるカリブ海のハイチ共和国では、長年続く政情不安と経済低迷に加え、森林破壊による環境破壊が開発を妨げる大きな原因となっています。本事業では森林伐採に少しでも歯止めをかけ緑を復元することを目的に、マイクロクレジット(少額融資)を通じたモリンガの栽培促進を行い、地域住民が植林を持続的に維持管理できるしくみを提案しました。

マイクロクレジットの導入に加え、栽培されたモリンガの葉を農協が確実に買ってくれるという好条件により、背中を押された多くの小農民がモリンガの栽培に興味を持ち、技術研修を経て、約3000本が植林されました。今後、収穫された葉を乾燥し加工する施設を充実させていく計画です。

植林技術研修(写真:ハイチ友の会)

## 団体からの声

土壌が石礫に覆われ、雨季も限られ灌漑施設もない村における植林活動は、活動初期から様々な問題に直面しましたが、農民集会を通して、解決策を見つけながら一歩一歩進みました。ロッシュ村村長の本事業への賛同と積極的な啓発活動の協力がなければ、住民参加を通じた植林はできなかったでしょう。村長は、「過去に行った大規模な森林伐採のせいで、村の農業生産性が落ち、雨も少なくなり、地下水は枯渇、川の水も大きく減少した。植林活動は、環境だけでなく住民の生活を改善するためにも必要で、ロッシュ村だけでなく周辺地域にも広げていきたい」と意欲満々です。今後も、地域の経済的な自立を図った植林活動を地域住民とともに続けていきます。



# 小児むし歯予防プログラム

対象国:東ティモール 団体名:アジア歯科保健推進基金(AOHPF)



## 事業紹介

東ティモールは、多くの犠牲者を出した長年の植民地支配を経て2002年ようやく真の独立を果たしましたが、その後も内戦などにより建国は困難を極めました。AOHPFは2013年に在日大使より「東ティモール歯科保健向上のための支援」を要請され、事業に取り組みました。人口115万人に対して歯科医師10人、デンタルナース50人という厳しいマンパワーのなか、果たしてどの様な改善が可能なのか。私たちは、まず東ティモールの医療制度の確認、歯科医師会(ADETIL)との協力関係構築、歯科疾患調査からスタートしました。歯科疾患調査では、6歳未満児のおし歯罹患率が80%を超えていること、さらにその数が年々増加していることが分かりました。

この状況を改善すべく、ADETILの協力の下、妊婦や母親に対する歯科保健指導教材(フリップチャート)を作成し、JICA基金の活用により400部作成することができました。また、保健省主催、JICA・WHO・UNICEF・助産師会・ADETIL・AOHPF共催のワークショップでは、歯科関係者・助産師・保健師・ヘルスワーカーなどに教材の活用方法を説明し、それぞれの立場から今後の活動への協力を約束いただくことができました。

ADETILメンバーとワークショップ打合せ(写真:AOHPF)

## 団体からの声

この度JICA基金から援助いただいた結果、フリップチャートを印刷・製本して東ティモール全土のヘルスセンター、病院、診療所に配布することができました。現地保健省、歯科医師会もその活用に積極的なので、2・3年後にはその効果が数字で確認できるだろうと期待しています。

AOHPFの活動理念は、政策提言や人材育成を通じてその国の自立を助けることです。今後は、彼ら自身で実態調査し問題解決に取り組んでいけるよう、そのノウハウを指導しています。





# マイクロファイナンス機関向け教育事業

対象国:カンボジア 団体名:特活) Living in Peace



## 事業紹介

Living in Peaceはカンボジアのマイクロファイナンス機関であるNHFinanceのスタッフ向けにITリテラシー向上のためのトレーニングプログラムを提供しました。NHFinanceは主に農業に従事する低所得層に少額の事業用融資を行う機関です。その資金は苗や肥料の購入などに当てられ、借り手の生活の助けとなっています。トレーニングプログラムの狙いはスタッフが日々の業務で活用しているExcelとPowerPointのスキルを高めることで、彼らの業務を効率化することです。事務作業にかかる時間を短くすることで、顧客である低所得農家へのアドバイスや商品設計など、貧困削減に直接繋がる仕事により多くの時間を割くことができると考えています。

トレーニングプログラムはプノンペン市内にあるNHFinance本社で2日間に渡り行いました。受講者からは日々の業務時間の短縮や質の向上などの効果が出たことに感謝する声が寄せられています。今回のトレーニングをきっかけにスタッフのスキルが高まり、NHFinanceの融資事業を通じた貧困の削減が進展していくことを願います。

トレーニングプログラムを終えた際の集合写真  
(写真: Living in Peace)



## 団体からの声

Living in Peaceはこれまで10年以上にわたり新興国のマイクロファイナンス機関を資金面からサポートする活動をしてきました。今回実施したトレーニングプログラムの提供は、資金面以外のサポートとしては当団体初の試みとなりました。このような活動をご支援いただいた皆さまに心から感謝いたします。

Living in Peaceは「すべての人にチャンスを」を合言葉に、これからも新興国が抱える問題に取り組んでいきます。

# 2015年ネパール大震災被災地の子どもたちのための復興コミュニティづくりへの支援活動



対象国:ネパール 団体名:NGOネパール『虹の家』



## 事業紹介

2015年ネパール大震災の被災地、カトマンズ郡サヌタリ村とオクレニ小中高校を含む4校およそ800人の子どもと女性を対象に、「サヌタリ村復興コミュニティづくり」「教育支援」「スクールプロジェクト」「女性自立支援」のプロジェクトを継続しています。具体的には子供たちの教育支援を軸とし、その他には寡婦となった女性の仕事と収入確保のためのミシン技術習得を支援しています。

震災直後の大きな問題は、働き手を亡くした家庭の子どもたちが学校へ通うことができなくなったことでした。サヌタリ村では「子ども土曜クラブ」を設置し、学校の授業内容の理解促進を支援をしています。その他3つの学校に新しい図書館が完成し、楽しい空間づくりをしています。サヌタリ村をモデルとして、子どもたちの居場所づくりが今後さらに広がることを期待しています。

図書室で 指遊びに声をあげて遊ぶ子どもたち



## 団体からの声

「世界の人びとのためのJICA基金」をいただき、被災地の子どもたちの学びは豊かになりつつあります。サヌタリ村では絵本の貸し出し「クルクル絵本」やドクターキャンプで歯の治療を行うことができました。また、「遊園地に行きたい」という子どもたちの夢も叶えることができました。オクレニ小中高校教員からは「図書館で絵本の世界を楽しんでいます」との報告をいただいています。さらに親に向けても「母親教室」を開催し、奨学金の趣旨説明と学校教育への理解・協力の促進を目指しています。

女性自立支援プロジェクトでは購入していただいたミシンでスクールシャツを制作し、106名の子どもたちにプレゼントすることができました。女性たちも社会参画と自立へと歩み始めています。

# 西ジャワ州スメダン県とバンドゥン県における小規模農家の持続可能なコーヒー栽培のための研修事業

対象国:インドネシア 団体名:耕志の会



## 事業紹介

インドネシア西ジャワ州スメダン県とバンドゥン県は中山間地が多く、経済成長と共に農業の担い手が減少しています。耕志の会は、同会代表が経営する株式会社農園たやで農業研修を受けた技能実習生が、それらの地域で就農できるよう支援を行っています。

この度、小規模農家が持続的に安定した収入を得て、かつ環境に配慮した農業を営むため、持続可能なコーヒー栽培の研修を行いました。具体的には、当地域のリーダーが先進地を視察した上で、それぞれの地域で行政と一緒にコーヒー栽培のセミナーを開きました。計77名の農家が参加し、当地域でのコーヒーによる収入が向上しただけでなく環境保護の意識向上にもつながりました。

## 団体からの声

当地域では、森林保護のため混農林業(アグロフォレストリー)政策がとられています。しかし、政策を不正利用し、木の伐採や混農林業を行わず野菜栽培に集中して森の破壊につながっているケースもあります。

今回研修をしたコーヒー栽培は市場での付加価値も高く、森と共存する品目として、注目されています。セミナーを通して参加した多くの小規模農家の環境に対する意識を変えることが出来ました。これからは環境に配慮した持続可能な営農スタイルの確立を支援していきます。また帰国後の技能実習生を支援することで、外国人との共生時代についても行動を起こしていきます。

コーヒー栽培先進地視察の様子(写真:耕志の会)



# ベトナム貧困地域における、子どもたちへの日本語教育支援事業

対象国:ベトナム 団体名:(特活)学び舎つばさ



## 事業紹介

私たちが活動しているニントン省は、ベトナム国内でも最も貧しい省の一つです。乾燥と高温の気候のため、農業やそれに伴う産業が盛んではなく、雇用の拡大が望めません。また、私たちが日本語学校「学び舎つばさ」を設立した村は、チャム族と呼ばれる少数民族の村で、少数民族ゆえの経済的不利益も多々あります。

そんな中、「学び舎つばさ」は無料で村の子供たちに日本語を教え、日本文化を紹介しています。子供向けの日本語教材が少ないため、自作した教材を使い、現地の先生たちと工夫しながら一緒に楽しく日本語を学んでいます。その結果、多くの生徒達が日本を好きになり、「将来日本とかかわりのある仕事に就きたい」と一生懸命日本語を勉強しています。

## 団体からの声

学校を設立するだけでもかなり大変なのですが、一番大変なのは、「いかに子供たちに育ってもらうか」ということです。そして、「地域で、活動を継続していく」ことです。そのためには、教材開発、教師の育成、地域の理解など多くのハードルがあります。

今回の事業では特に教師育成に焦点をあて、教員経験者の日本人を常駐として置き、教材開発・授業の指導を行い、現地教師のレベルアップを図ってきました。その結果、今年「つばさ」を修了する生徒の中から、日本語学科を持つ大学を目指す生徒も出てきました。皆様の寄附に大変感謝しております。

覚えただけの日本語で、さっそくカルタ遊び (写真:内川伸也)





# ネパール大地震で被災した子ども達への奨学金支援事業



対象国:ネパール 団体名:(特活)ミランクラブジャパン



## 事業紹介

当団体の主たる事業は『経済的に恵まれない女子の教育支援』で「孤児、母子家庭、極端な貧困層」を対象としてネパール25郡の子ども達の支援を行っています。2015年4月のネパール大地震で奨学生が住む多くの村々は震源地の近くに集中して壊滅的な被害を受け、生活基盤の復興と共に子ども達が再び学校へ戻れるかが緊急課題でした。JICA基金活用事業では、カウンターパートのミランクラブネパールと地方支部スタッフが奨学生へ手渡しで確実に奨学金の配布を行うと共に、家庭や通学状況の確認、勉学の奨励等を実施しました。

「貧困」「震災」の環境にある子ども達の『学校に行きたい!』という切実な願いは、奨学金支援により被災のために諦めていた学校へ戻ることの夢を叶えていくことができました。

## 団体からの声

被災地の厳しい生活環境の中でJICA基金は子ども達に『教育』への光を灯していくことができ、ネパールの子どもの達やスタッフの大きな力となりました。基金事業への多くの感謝のメッセージから、その一部分を抜粋します。

★奨学生から:「父が他界し経済状況苦しい中、地震で家を失い、今も仮設の住まいで暮らしています。先生になるという夢のために勉強を続けていきたいです。苦しい状況を理解し支援して下さりありがとうございます」

★奨学生の母親から:「私は農家ですが家族でただ一人の収入源です。食料を手に入れるのも困難な上に、さらに娘の教育のために暮らしていくことがとても大変な時に奨学金を提供して下さったJICA基金に感謝しています」

★奨学金配布の支部スタッフから:「奨学生が住む村はネパールの僻地で奨学金を届けるために2~3日かかる場所もあります。奨学金により子ども達をはじめ、家族の皆も生活に自信を持てるようになりました。私はネパールの農村地域の子ども達の教育向上のために、今後も皆様と共に協力を続けたいと思います。心から感謝いたします。」

奨学金支援で学校へ通う地方の子ども (写真:ミランクラブジャパン)



# ポアキルでの貧困削減のためのマイクロクレジット事業



対象国:グアテマラ 団体名:日本ラテンアメリカ協力ネットワーク



## 事業紹介

活動地域のグアテマラ、ポアキルはマヤ先住民の農村地域で、住民のほとんどは貧困です。ハリケーンや干ばつなどの災害も頻繁で、物価の上昇とあいまって、生活は厳しく、子どもたちの栄養状態もよくありません。本事業では当地で新規7人、継続5人にマイクロクレジットの融資を行いました。受益者はこれを元手に商売を始めたり、家畜を飼って育てたり、織物をする系を買ったりしました。開始前と期間中には受益者への研修を行い、資金の管理や運営、商売のやり方、などについて学んでもらいました。事業を通して、収入が増え家族の食事が良くなった、子どもの学費を払えるようになった、などの報告がありました。返済された資金は他の女性たちへの融資に回し、さらに受益者を増やしていきます。

織りあがった民族衣装を見せる女性 (写真:グアダルーベ協同組合)

## 団体からの声

暖かいご支援をありがとうございました。このマイクロクレジットのおかげで12人の女性が収入の道もち、生活を良くすることができるようになりました。ある女性は、融資で織物をする糸を購入し、伝統的な民族衣装ウィピルを織り、それを売っています。その利益で、これまでめったに食べられなかった卵や肉が買えるようになり、また、織物の収入のおかげで子どもに学校を続けさせることができました。それまでどこからも融資を受けることができなかった女性が、このマイクロクレジットのおかげで生活が少しずつよくなり、将来の希望も持てるようになったと笑顔で語ってくれました。



# 2018年度 収支報告

2018年度(平成30年度) 世界の人のためのJICA基金寄附実績		
	件数	金額(円)
個人	417	1,861,000
法人・団体	27	12,466,190
合計	444	14,327,190

2018年度(平成30年度)寄附金使用実績		
	件数	金額(円)
配分事業 (2018年度新規分)	10案件	8,482,400
運用経費 (2018年度寄附金収入額の 10%以内)	寄附金システム費 その他	1,144,799
次年度繰越		4,699,991
合計		14,327,190



## ～国際協力のこれから～

開発途上国における課題が多様化する今日において、  
JICAだけの活動には限界があります。

JICAは、独自の取り組みにとどまらず、個人、NGO、自治体、大学、  
民間企業など多様なアクターとのさらなる連携を進め、  
それぞれの持つ知見や経験を国際協力に活かしていきたい  
と考えています。

こうした取り組みを通して、日本社会の課題解決や地域活性化など、  
日本社会に還元していくことも期待しています。



←詳しい事業内容は「JICA 市民参加」ページよりご覧ください



## 国際協力を日本の文化に！！

# 2019年度 採択案件

2019年度は次の10件を実施する予定です。

団体名／活動国

事業名

(通常枠)

特活) World Theater Project／カンボジア

子どもたちの健やかな未来のために。  
薬物防止啓蒙映像制作及び同映像の移動映画館による上映事業

特活) 礎の石孤児院／ザンビア

孤児およびストリートチルドレンのための奨学金支援事業

特活) 日本ボリビア人協会／ボリビア・日本

アルパカプロジェクト  
～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出

NGOネパール『虹の家』／ネパール

2015年ネパール大震災 被災地の子どもたちと女性たちのための復興コミュニティづくり支援活動  
テーマ～未来の種を育てましょう～スダル バビセコ ヨジャナ～

特活) コーヒー生産地と協働する会／ルワンダ

コーヒー生産地における持続的生産におけた土壌改良及びポテト臭解決のための支援

マナラボ 環境と平和の学びデザイン／フィリピン

「小規模農家の手で美味しいコーヒーを生産しよう!」  
コーヒー小規模生産者組合を対象とした収穫後の加工機器の設置と運営指導

特活) POMk Project／インドネシア

西ヌサトゥンガラ州中央ロンボク郡・Jonggat地区教員に対する健康教育支援事業

(チャレンジ枠)\*注

African Daisy／ルワンダ

グルテンフリーやビーガン商品を扱うベーカリー事業でルワンダの女性と子供を笑顔にする

特活) River Aid Japan／カンボジア

カンボジアの豊かな水を活かしたカヌー連盟選手及びコーチの人材育成プロジェクト。  
「同事業を通じてカヌーに関わったカンボジア人は、優れたスポーツ選手はもとより、  
環境意識や団体行動意識に優れた人材となる」

特活) 5loaves／セネガル

セネガル共和国における障がい児生活環境調査及び個別支援計画の作成

\*注…2019年度より、非営利の国際協力活動実績が2年未満の個人・団体のために  
「チャレンジ枠」が新設されました。

各実施団体のより詳しい事業内容は、  
下記サイトの「事業完了報告書」にあります。

ぜひそちらもご覧ください！

JICA寄附サイト：<https://www.jica.go.jp/partner/private/kifu/index.html>



世界の人びとのためのJICA基金ニュースレター 2019発行  
独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル  
TEL:0800-100-5931 (寄附専用ダイヤル)